

## 2021 年度支部長会・各種委員会活動報告

・ 支部長会	12 頁
・ 将来構想委員会・運営調整委員会	13 頁
・ 感染症対策委員会	14 頁
・ 財務委員会	15 頁
・ 企画・広報委員会	16 頁
・ 倫理委員会	17 頁
・ 利益相反委員会	18 頁
・ 編集委員会	19～21 頁
・ 用語集改訂小委員会	22～23 頁
・ 全国集計委員会	24 頁
・ 認定医制度委員会	25～26 頁
・ 試験委員会・ブラッシュアップ小委員会	27 頁
・ 教育・研修委員会	28～29 頁
・ 学会賞受賞者選考委員会	30 頁
・ 胃がん検診精度管理委員会	31 頁
・ 大腸がん検診精度管理委員会	32 頁
・ 検診従事者委員会	33 頁
・ 胃がん検診専門技師認定委員会	34 頁
・ 超音波検診委員会	35 頁
・ 胃 X 線読影補助認定委員会	36 頁
・ 大腸 CT 検査技師認定委員会	37～38 頁
・ 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ	39 頁
・ 胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会	40 頁
・ 対策型胃内視鏡検診の精度管理に関するワーキンググループ	41 頁

## 支部長会

担当理事：渋谷大助（理事長）

支部長：北海道 松浦邦彦

東北 加藤勝章

関東甲信越 入口陽介

東海北陸 丹羽康正

近畿 平井都始子

中国四国 井上和彦

九州 松浦隆志

委員会開催：3回

1. 7支部における2021年度事業報告・会計報告ならびに2022年度事業計画・予算について報告があった。
2. 支部長交代について  
新年度令和3年度より、次のとおり支部長が交代となった。  
北海道支部 藤谷 幹浩（旭川医科大学）  
東海北陸支部 丹羽 康正（愛知県がんセンター）
3. 研修会及びセミナーにおけるスタッフへの賃金支払いについて  
研修会及びセミナーにおいては、アルバイトを雇うことはなく、準備する会員に業務の負担がかかっているため賃金の支給を認めた。
4. Web開催における参加証及び各種研修会修了証の発行基準について  
○地方会の参加証の発行基準  
・参加登録し参加費が支払われた時点  
○医師研修会などの各種研修会修了証の発行基準  
・当該研修会を最後まで視聴したことを確認出来るようログなどを管理する  
尚、ログの確認方法は各支部で検討することとなった。
5. 各支部の会員名簿について  
各支部に支部会員名簿が提供されておらず、本学会の会員・非会員の把握が出来ない。会員数アップのためにも、支部会員名簿の提供について検討されてはどうかとの意見があった。  
会員名簿については、個人情報を公開することに対し会員の同意が得られておらず、今後の名簿取扱いについては企画・広報委員会で検討することとなった。
6. 会計マニュアルについて  
地方会及び研修会の会計マニュアルを一部改訂した。

## 将来構想委員会

担当理事：渋谷大助（理事長）

委員：乾 和郎、井上和彦、入口陽介、岡 政志、小川真広、加藤勝章、野崎良一

委員会開催：2回（運営調整委員会と合同開催）

1. 内視鏡検診施設認定制度の創設について

理事長より提案された内視鏡検診施設認定制度創設について検討を行い、理事会に諮った。

2. 附置研究会のあり方について

長期設置されている附置研究会のあり方について審議し、理事会に諮った。

3. 福祉の使用について

学会の規程に使用されていた「福祉」の文言について検討を行い、理事会に諮った。

4. 支部会員名簿について

支部への会員名簿提供について検討し、理事会に諮った。

5. 各種規定案について

次の規程を一部見直し、理事会に諮った。

- ・附置研究会設置規程と申請書
- ・学術集会規程
- ・支部運営規則
- ・メールマガジン掲載申請書

6. 読影 e-ラーニングの活用について

読影補助認定資格取得の読影 e-ラーニングを読影医育成の教育ツールとして活用する検討を行い、理事会に諮った。

7. 認定指導施設の検討について

認定医制度規程による指導施設のあり方について検討し、理事会に諮った。

8. 総会時の各種委員会の開催について

第61回総会前日の理事会・支部長会、代議員会などの開催形式について検討した。

## 運営調整委員会

担当理事：渋谷大助（理事長）

委員：乾 和郎、井上和彦、入口陽介、大西洋英、小川真広、加藤勝章

委員会開催：2回（将来構想委員会と合同開催）

## 感染症対策委員会

担当理事：渋谷大助（理事長）

副委員長：加藤勝章

委員：岡庭信司、野崎良一

外部委員：賀来満夫（東北医科薬科大学感染症学）

委員会開催：2回（メール審議）

1. 「消化器がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応について」の提言第5～6報を学会HPに公表した。

## 財務委員会

担当理事：乾 和郎

委員：井上和彦、小川真広、永尾重昭

委員会開催：2 回

### 1. 2020 年度財務諸表の確認と審議

### 2. 2022 年度予算

本部の予算、7 支部予算の審議

#### 1) 本部

##### ○事業活動収入について

- ・正会員は減少するが、一般会員は増加傾向にあり会費収入は約 7 千万円を見込んでいる。
- ・事業収入では、認定手数料、研修受講料はそれぞれ減少傾向にあり減収を見込んでいる。
- ・学術集会収入では、参加費は増加、協賛金・展示・広告・寄付金はそれぞれ減収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 1 千万円の減収を見込んでいる。

##### ○事業活動支出について

- ・総会で、会場費・運営費・旅費交通費・通信運搬費・委託費などそれぞれ支出減を見込んでいる。

以上の結果、事業・管理費支出は約 1 億 1 千万円を見込んでいる。

### 3. 2) 支部

#### ○収入について

- ・支部運営経費は会員数による本部からの補助金が主収入であるが、一部の支部で賛助会費（年会費）を徴収している。

#### ○支出について

- ・支出は地方会、各種研修会の運営に伴う使途が主体であり、概ね昨年度実績を参考に計上されている。

### 4. 全体の収支について

法人全体では、正味財産期末残高は約 2 億円余りとなり、前年度比で約 5 百万円余りの増加を見込んでいる。

### 5. 特定事業運営積立基金について

特定事業運営積立基金の一部は公社債投信にて運用しているが、現時点で少しずつ評価額が減少している。学会が保有する財産は元本保証でなければならぬため、SMBC 日興証券の公社債投信を解約し、特定事業運営積立基金の預金口座（三菱 UFJ 銀行）への繰入について検討した。

### 6. 総会・大会・支部・地方会・各種研修会における会計マニュアルを一部改訂した。

## 企画・広報委員会

担当理事：藤谷幹浩

委員：鎌田智有、小池智幸、平井都始子、平賀聖久、満崎克彦

委員会開催：2回（内1回はメール審議）

1. 会員への情報発信の「メールマガジン」を定期及び臨時号を配信した。
2. 「福祉」の使用について討議し、理事会に報告した。
3. 支部会員名簿について、個人情報の観点よりデータによる会員名簿の提供について討議し、理事会に答申した。
4. メールマガジン掲載記事の管理を行うため、メールマガジン掲載申請書類を整備し、理事会に諮った。
5. 東京都の「Tokyo 女子けんこう部」へのリンク貼りを承認した。

## 倫理委員会

担当理事：岡 政志

顧問：乾 和郎

委員：大西洋英、川口 淳、小林 隆、阪上順一

外部委員：久津見弘（滋賀医科大学臨床研究開発センター）、若林昭子（コンパッソ税理士法人）、  
亙理 茂（吉田総合司法事務所）

委員会開催：1回（WEB）、2回（メール審議）

### 1. 倫理指針について

本学会倫理指針を JDDW2022 の倫理指針に合わせ 2022 年 1 月 25 に改正した（施行日：2022 年 2 月 1 日）。

### 2. 倫理委員会規則、迅速審査該当研究審査手順書および様式について

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定に伴い、倫理委員会規則、迅速審査該当研究審査手順書および様式を 2022 年 3 月 8 日に改定した（施行日：2022 年 3 月 18 日）。

### 3. 倫理委員研修

JDDW 倫理啓蒙資料「学会発表に際して知っておくべき個人情報と倫理に関する事項」と事務局に寄せられた質問をもとに研修を実施した。

## 利益相反委員会

担当理事：乾 和郎

委員：川口 淳、西田 博、源 利成

外部委員：亙理 茂（吉田総合司法事務所）

委員会開催：1回（メール審議）

1. 昨年3月に制定された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定に伴い「人を対象とする医学系研究に関する指針」および「ヒトゲノム・遺伝解析研究に関する倫理指針」は6月30日を以って廃止、に基づき、本学会のCOI指針などについても該当箇所を修正した。
2. 2018～2020年間のCOI自己申告書を該当者全員より提出があった。
3. 2019～2021年間のCOI自己申告書を2022年度の代議員改選後に依頼することとなった。



## 編集委員会

担当理事：西田 博

委員：安保智典、井岡達也、小田丈二、鎌田智有、鈴木康元、西村重彦、廣岡芳樹、間部克裕、三上達也、満崎克彦、三好広尚、安田 貢、山道信毅、吉村理江、渡 二郎

外部委員：服部 聡（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座医学統計学）

委員会開催：1回（WEB）、8回（メール審議）

### 1. 原稿依頼について

- ・総会、大会：講演、主題、一般演題（デジタルポスターセッション）は、司会（座長）推薦の演題
- ・地方会：講演、主題は、司会推薦の演題
- ・編集委員会から「総説」の推薦がされた筆者

### 2. 投稿・査読状況

#### (1) 年度別投稿数の推移

年度	総投稿数	会長講演	総説	原著	経験	症例報告	この症例に学ぶ	Letter to the Editor	特別寄稿
2019	43	2	3	30	2	5	0	1	0
	投：16 依：27	投：0 依：2	投：0 依：3	投：12 依：18	投：0 依：2	投：0 依：2		投：1 依：0	
2020	38	2	3	29	2	2	0	0	0
	投：17 依：21	投：0 依：2	投：0 依：3	投：14 依：15	投：1 依：1	投：2 依：0			
2021	30	0	10	12	2	5	0	0	1
	投：11 依：19		投：0 依：10	投：5 依：7	投：1 依：1	投：5 依：0			投：0 依：1

#### (2) 2021年度論文種類別新規投稿数および採択論文数

（投稿期間 2021. 4. 1～2022. 3. 31、採択率 2022. 4. 25 現在）

種別	新規投稿数	2021年度採択・不採択論文数 内訳		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	0	0	0	0%
総説	10	7	2	70%
原著	12	4	3	33%
経験	2	2	0	100%
症例報告	5	4	1	80%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	0	0	0	0%
特別寄稿	1	1	0	100%
計	30	18	6	60.0%

注）審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

#### (3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

平均査読日数
23.7 日

### 3. 掲載内容について

1) 論文内容の最終確認は、持ち回り委員会に於いて行った。

2) 主な掲載は下記のとおりである。

- ・ 59 巻 3 号は第 59 回総会の会長講演を掲載した。
- ・ 59 巻 suppl (1) 号は「第 60 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 59 巻 suppl (2) 号は「第 59 回大会 (JDDW2021) プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 60 巻 1 号は委員会報告「2018 年度消化器がん検診全国集計報告」「2018 年度消化器がん検診全国集計報告 (第 60 回総会)」「2018 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告」「腹部超音波検診判定マニュアル改訂版 (2021 年)」を掲載した。

### 4. 投稿規定改正について

本学会誌の扱う範囲の定義を追加した。(下線部分)

#### 論文種目

総説, 原著, 経験, 症例報告, この症例に学ぶ, Letter to the Editor 等とする。

ただし、掲載原著論文には、消化器がん検診が影響を及ぼすヒトの健康状態（死亡率・罹患率・有病率など）に関する研究、ヒトまたはヒトから取得した試料を対象とした検査手法の診断精度に関する研究、モデル分析（医療判断分析、医療経済的評価あるいは受診者の利益・不利益に関する研究など）、記述・分析疫学的研究などが含まれる。また総説は上記項目に関するレビューである。なお、原則として診断精度に関する研究であっても工学的基礎研究や分子生物学的基礎研究並びに検査法に関わる開発基礎研究は本誌の掲載対象とはならない。

### 5. 転載の一部有償化実施について

本学会が発刊する書籍等からの転載について下記のように定めた。

使用目的	主な基準	転載料
学術利用	学術雑誌に転載する場合（学会誌などの原著論文、総説など）	無料
非営利利用	行政・非営利団体が転載する場合	無料
準営利目的	商業医学誌に転載（商業雑誌の総説など）	無料
営利目的	企業等が収益促進を狙い、あるいは利用者への自社製品の認知促進等を目的に作成した印刷物、Web など	1 図表：30,000 円（税込）

### 6. 論文審査ガイドラインについて 2)

オンライン投稿、corresponding author の定義等、現状に合わせた微修正を行い、改正した。

### 7. 機関誌掲載論文数

掲載論文 29 編（内訳：投稿 13、依頼 16）

## 8. 機関誌掲載内訳

	第 59 卷 3 号～第 60 卷 2 号 (2021 年度)	第 58 卷 3 号～第 59 卷 2 号 (2020 年度)	増 減 △
発刊号数	6 号+suppl 2 号	6 号+suppl 2 号	0 号
総頁数	655 頁	455 頁	200 頁
総説	5 編	4 編	1 編
原著	17 編	25 編	△8 編
経験	5 編	0 編	5 編
症例報告	1 編	6 編	△5 編
この症例に学ぶ	0 編	0 編	0 編
Letter to the Editor	0 編	1 編	△1 編
会長講演	1 編	1 編	0 編
特別講演	0 編	0 編	0 編
地方会抄録	10 編	0 編	10 編
委員会報告	4 編	3 編	1 編
附置研究会報告	0 編	0 編	0 編
総会プログラム・抄録集	92 頁	105 頁	△13 頁
大会プログラム・抄録集	183 頁	381 頁	198 頁

## 用語集改訂小委員会

担当理事：西田 博

委員：青木利佳、阿部靖彦、雑賀公美子、阪上順一、永田浩一、服部昌和、松田尚久、松原 浩

委員会開催：5回（WEB）（全体1回、分野毎会議各1回）

### 1. 改訂の趣旨

2019年の改訂では消化器がん検診に必要な不可欠な用語を掲載することを目的に不要な用語の整理を主体に取り組んだ。今回は、2019年以降消化器病分野の研究で新たに用いられるようになり、消化器がん検診の分野でも重要と判断される用語の収載を目的に改訂を実施する。

### 2. 委員構成と担当分野について

改訂作業は編集委員、用語集改訂委員の協働で行う。

分野は「精度管理」「胃がん検診」「大腸がん検診」「超音波検査」の4分野。

分野のメンバー構成は下記のとおり。分野毎、リーダーを中心に作業を行う。

総括 <sup>※1</sup>	分野	リーダー <sup>※2</sup>	編集委員会	用語集改訂小委員会
西田 博	胃がん検診	渡 二郎	安保智典、小田丈二、 鎌田智有、間部克裕、 安田 貢、山道信毅、 吉村理江	青木利佳、阿部靖彦
廣岡芳樹	大腸がん検診	松田尚久	鈴木康元、三上達也、 満崎克彦	永田浩一、服部昌和
山道信毅	肝胆膵検診	阪上順一	廣岡芳樹、井岡達也、 西村重彦、三好広尚	松原 浩
	精度管理	雑賀公美子	西田 博、服部 聡	

※1：全ての領域を確認して不適切な用語、英語の誤表記などがないか確認

※2：各チーム会議の開催、問題点の抽出とチーム内での合意形成

### 3. スケジュール

- ・分野の原稿締切：2022年12月末
- ・総括の締切：2023年3月末
- ・HP公開：2023年4月（予定）

### 4. 用語の範囲について

検診実施現場、精検、内視鏡治療、外科治療等の分野から消化器がん検診分野の研究発表、論文作成等に必要用語を吟味し収載する。

## 5. 各分野の作業

### ・胃がん検診分野

過去10年間の本学会原著論文をテキストマイニングし、消化器がん検診用語集2019掲載用語とを比較した結果、用語を6つのジャンル（「解剖学」「検診学・疫学」「X線検診」「内視鏡検診」「ピロリ関連」「その他」）に分類し、各ジャンルを2名で担当し用語の検討に入った。

### ・大腸がん検診分野

消化器がん検診用語集2019に掲載されている用語をベースに内視鏡検査・治療の分野で使用されるようになった用語の拾い出しを実施。

### ・超音波検診分野

消化器がん検診用語集2019を8つのジャンル（「実施基準」「肝臓」「胆嚢・肝外胆管」「膵臓」「脾臓」「腎臓」「腹部大動脈・血管」「その他」）に分類し、日本超音波学会用語集との対比を行い、用語収載の可否を検討中。

### ・精度管理分野

各分野で精度管理に関連する用語が見出されるため、それらを一括して検討する。英語表記は妥当でも日本語表記が現在使用されていないケースなどもあり、日本語用語の見直しも検討している。社会医学分野で使用される用語が多いが、双方の分野で用語に含まれる意味に相違がある場合もあり、正確な概念が伝わるよう用語の収載に配慮する。

## 7. 超音波検査技師委員の追加について

超音波検診分野より下記の委員追加が提案され、理事会で承認された。

委員：安田鋭介（新生病院）

木浦伸行（豊橋市民病院 放射線技術室）

外部委員：西田 睦（北海道大学病院 検査・輸血部技師長／超音波センター副センター長）

## 全国集計委員会

担当理事：松浦隆志

顧問：水口昌伸

委員：平山眞章（北海道）、千葉隆士（東北）、今武和弘・鈴木康元（関東甲信越）、古田隆久（東海北陸）、平井都始子（近畿）、鎌田智有（中国四国）、平川克哉（九州）

幹事：宮川国久

委員会開催：なし

### 1. 2018 年度（平成 30 年）全国集計について

#### 1) 協力施設について

2017 年度より 36 施設ほど増加し、304 施設となった。

#### 2) 集計結果報告について

- ・胃がん発見率は 0.070%、要精検率 5.1%と昨年度調査と比べ差は見られない。大腸がんについても、同じように減少傾向となっている。
- ・内視鏡検診に関しては 41 万件と昨年度調査よりも 4 万件減少している。2016 年度から自治体による対策型胃がん検診への内視鏡導入がすすんでいるが、今後の精度管理の中で画像のダブルチェックが最も問題となっている。

### 2. 2019 年度（平成 31 年）全国集計について

- ・全国集計調査の依頼を行った。集計実施期間は 11 月 1 日から 2022 年 3 月 15 日までとしたが、協力施設の担当者がコロナ禍業務で時間がとれないため、3 月末日まで延長した。

## 認定医制度委員会

担当理事：大西洋英

副委員長：岡 政志

委員：渡 二郎（北海道）、三上達也（東北）、石川 勉・中島寛隆（関東甲信越）、

金岡 繁・杉山和久（東海北陸）、中島滋美（近畿）、日山 亨（中国四国）、吉村理江（九州）

委員会開催：2回（WEB）、2回（メール審議）

### 1. 2021年度新規認定医審査

支部審査委員会の結果を踏まえて認定基準を基に審査を行い、下記のとおり承認した。

東北支部 3名 関東甲信越支部 9名 東海北陸支部 10名

近畿支部 6名 中国四国支部 6名 九州支部 1名 計 35名

### 2. 2021年度新規指導医・指導施設審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 13名 指導施設 3施設

### 3. 2021年度認定医更新審査

基準に基づいて認定更新審査した結果、下記のとおり承認した。

認定更新 65名 終身 35名 計 100名

### 4. 2021年度指導医・指導施設更新結果

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 120名 指導施設 47施設

### 5. 2021年度指導施設状況確認

93施設における認定医・指導医の在籍状況を行ったところ78施設は要件が満たされていた。保留は13施設、認定取消は2施設であった。

### 6. 認定医認定基準の注釈追加について

JDDW教育講演は「従来の認定基準」の要件に入っているが「胃区分の経過措置の認定基準」は対象外になっており誤解を招きやすいため、注釈を追加した。（下線部分）

(3)学会主催（総会時）の医師研修会に半日の研修会1回以上またはJDDW教育講演に半日単位2回以上の参加があること。

注）胃の経過措置においては、JDDW教育講演は対象外となり、医師研修会は合計1日以上参加が必須となりますのでご留意ください。詳細は「胃区分の経過措置の認定基準」をご参照ください。

7. 第3回総合認定医試験延期に伴う認定医制度の対応の件

新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、第3回総合認定医試験は次年度に延期されたため下記対応を行う。

① 2021年度認定医更新の救済措置者で第3回総合認定医試験受験者への対応

救済措置は1年のみの適用のため、該当の先生は、2022年度更新手続きを行っていただき、特例として、総合認定医を合格後の認定料（2万円）から認定医更新料（1万円）を差し引いて対応する。

② 救済措置者が2022年更新合格した場合の認定期間

2021年4月1日～2027年3月31日

なお、次回更新の際の実績取得期間は2022年4月1日～2027年3月31日の5年間とする。

③ 第3回総合認定医試験合格者の認定期間

・2020年・2021年度申請者：理事会で合格が承認された日～2028年3月31日

・2022年度申請者：2023年4月1日～2028年3月31日

8. 新型コロナ感染の影響による救済措置について

・新規総合認定医：単位取得期間を1年間延長

・新規認定医：認定基準となる学術集会、研修会の参加および従来の規定で申請される場合の実績、論文の業績期間を1年遡って認める

・認定医更新：期日までに手続きを行われない場合、自動的に1年延長



## 試験委員会

担当理事：金岡 繁

委員：非公開

委員会開催：4回（WEB）

### 1. 第3回総合認定医試験実施について

第3回総合認定医試験は、2020年度、2021年度合同で10月24日（日）に砂防会館にて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2022年2月20日（日）に再延期した。しかし、第6波による感染拡大のため止むを得ず再々延期した。

今後、これ以上の延期を避けるため、現地での開催を断念、WEB試験について検討し、CBT（Computer Based Testing）試験の導入を決定した。

第3回総合認定医試験は、2020年度、2021年度、2022年度合同で、2022年11月20日（日）実施予定とした。

なお、試験前講義は、一定期間を設けオンデマンド配信で行うこととする。

### 2. 第4回総合認定医試験について

第4回総合認定医試験（2023年度）までは試験前講義を実施し、4回分の試験問題で過去問集を作成し、第5回総合認定医試験（2024年度）に間に合うように作成する。

## ブラッシュアップ小委員会

担当理事：金岡 繁

委員：非公開

委員会開催：開催なし

## 教育・研修委員会

担当理事：井上和彦

委員：伊藤高広、小川眞広、河合 隆、小池智幸、関口正宇、日山 享、眞部紀明、間部克裕

委員会開催：1回（持ち回り）

### 1. 2021 年度第 2 回医師研修会について

1) 2020 年度第 1 回医師研修会と同様、総会での現地開催ではなく、オンデマンド配信した。

・オンデマンド配信期間：2021 年 6 月 4 日（金）～15 日（火）

・受講料： A+B 12600 円

どちらか一方 7600 円（いずれも WEB 決済システム使用料 600 円込）

・受講者：Aセッション 173 名、Bセッション 174 名

・プログラム

A セッション：消化器がん検診の最前線

挨拶：井上和彦（淳風会健康管理センター）

1. 胃 X 線検診の最前線（30 分）

伊藤高広（奈良県立医科大学）

2. 上部消化管内視鏡検診の最前線（30 分）

青木利佳（とくしま未来健康づくり機構）

3. スクリーニングとしての全大腸内視鏡検査の可能性（30 分）

鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター）

4. 肝炎ウイルス対策の最前線（30 分）

熊田 卓（岐阜協立大学看護学部看護学科）

5. 救命可能な膵がん発見をめざして（30 分）

田中幸子（大阪がん循環器病予防センター）

B セッション 消化器がん検診の基本

挨拶：井上和彦（淳風会健康管理センター）

1. がん検診総論（60 分）

松田一夫（福井県健康管理協会）

2. 胃がん検診総論（30 分）

井上和彦（淳風会健康管理センター）

3. 大腸がん検診総論（30 分）

西田 博（城見会アムスニューオータニクリニック）

4. 肝胆膵スクリーニング総論（30 分）

乾 和郎（山下病院）

2) 講義を DVD に保存し、各支部地方会の医師研修会プログラムに活用できるよう呼びかけた。

## 2. 2022 年度第 3 回医師研修会について

1) 開催方法：総会が完全 WEB 開催となったため、第 1 回・第 2 回同様に on Demand 配信とする。確認問題はそれぞれ 1 題ずつ作成してもらう。

### 2) プログラム

#### A セッション：消化器がん検診の基本と展望

##### 1. がん検診の基本的考え方 (60 分)

加藤勝章 (宮城県対がん協会がん検診センター)

##### 2. 胃 X 線読影の基本と胃がん検診における今後の役割 (30 分)

山道信毅 (東京大学医学部附属病院予防医学センター)

##### 3. 大腸がん検診の現状と展望 (大腸内視鏡検査の導入も含めて) (30 分)

松田尚久 (東邦大学医療センター大森病院 消化器内科)

##### 4. 腹部超音波スクリーニングの基本と展望 (30 分)

岡庭信司 (飯田市立病院 消化器内科)

#### B セッション：消化器がん検診に関する最近の話題

##### 1. 上部消化管内視鏡スクリーニングの将来像 (咽喉頭から十二指腸下行部まで) (30 分)

間部克裕 (淳風会健康管理センター)

##### 2. H. pylori 除菌後胃がんと未感染胃がん (30 分)

吉村理江 (博愛会人間ドックセンターウェルネス)

##### 3. 大腸 CT 検査の現状と今後の展望 (30 分)

永田浩一 (福島県立医科大学)

##### 4. NASH/NAFLD の最近の話題 (30 分)

小川真広 (日本大学医学部 内科学系消化器肝臓内科)

##### 5. 消化器がん検診における医療安全 (判例を含めて) (30 分)

日山亨 (広島大学保健管理センター)

青木利佳 (とくしま未来健康づくり機構)

## 学会賞受賞者選考委員会

担当理事：濱島ちさと

委員：飯島克則、岡庭信司、佐々木清寿、謝花典子、西田 博、松田尚久

委員会開催：2回（WEB会議。メール審議）

1. 有賀記念学会賞および学術奨励賞それぞれの候補者について、基準に照らし合わせ選考を行い、理事会に答申した。

有賀記念学会賞 該当なし

学術奨励賞 2名

- ・鈴木千晶（聖隷福祉事業団保健事業部聖隷健康サポートセンター Shizuoka 放射線）

受賞対象論文：任意型胃がん検診における患者照射基準点での線量評価（58(4)）

- ・野村好紀（北海道対がん協会旭川がん検診センター）

受賞対象論文：びまん性発赤の画像解析による客観的評価の検討（59(1)）

2. 英文表記について

有賀記念学会賞「Kaizo Ariga Award for Cancer Screening」

学術奨励賞「JSGCS Paper of the Year Awards」

## 胃がん検診精度管理委員会

担当理事：加藤勝章

委員：青木利佳、安保智典、小田丈二、小池智幸、高橋宏和、平川克哉、山道信毅

委員会開催：1回（メール審議）

### 1. 偶発症調査について

- ・2018年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を学会誌60巻1号に掲載した。また、本学会HPでも公開した。
- ・2019年度胃がん検診偶発症アンケート調査を全国施設協力施設に依頼した。

### 2. 対策型胃内視鏡検診の精度管理に関するワーキンググループについて

- ・対策型胃内視鏡検診の精度管理の改善策ならびにマニュアル改訂に向けた検討をワーキンググループにて検討中

### 3. 胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会について

- ・対策型胃 X 線検診における被曝による不利益を最小化することを目的とした被曝線量管理目標を検討中
- ・撮影法文分科会：撮影法の標準化（マニュアル・）DVD作成
- ・測定法分科会：線量測定法について JRIME 委員との協議
- ・測定施設に選定については全衛連の協力を仰ぐ

### 4. 対策型胃内視鏡検診施設評価について

- ・関連委員会ならびに全衛連と協議中

## 大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：野崎良一

副委員長：鈴木康元

顧問：斎藤 博、樋渡信夫

委員：金岡 繁、関口正宇、只野敏浩、永田浩一、西田 博、松田尚久、松本啓志、村上晴彦、山口和也

委員会開催：1回（WEB開催）

大腸がん検診マニュアル—2021年度改訂版— 発刊に関するWEB会議開催：2回

### 1. 「大腸がん検診マニュアル—2021年度改訂版—」の発刊について

昨年度着手した大腸がん検診マニュアル—2021年度改訂版—（英語名：A Handbook of Colorectal Cancer Screening 2021）の発刊準備を引き続き行った。2022年5月発行のオンラインジャーナルに掲載を予定している。

・執筆（執筆者・チェック担当者 19名）

歌野健一	遠藤俊吾	角川康夫	金岡 繁	雑賀公美子	斎藤 博	鈴木康元
関口正宇	只野敏浩	永田浩一	西田博	野崎良一	樋渡 信夫	馬嶋健一郎
町井涼子	松浦 邦彦	松田一夫	松田尚久	山口 和也		

・校正作業

・図表の転載許可申請

・関連10学会（日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本消化管学会、日本人間ドック学会、日本大腸検査学会、日本がん検診・診断学会、日本医学放射線学会、大腸癌研究会）への評価依頼、及び学会HPにおいてパブリックコメントを募集したところ、92項目に及ぶコメントや質問が寄せられ、各項目に関して執筆担当のメンバーが回答を提出。

・索引作成

### 2. 附置研究会「大腸がん検診精度管理検討研究会」の実施

開催日時：2021年6月4日（金） 14:30-17:00

プログラム：「大腸内視鏡検診の精度管理評価指標」

司会：鈴木康元・松田尚久

「大腸内視鏡検診の精度管理評価指標を考える」

金岡 繁

「大腸内視鏡検査を用いた対策型大腸がん検診を実施するために求められる精度管理指標を考える」

西田 博

「大腸内視鏡検診における精度管理指標として何が適切か」

松田 一夫

「当センターで行った任意型大腸内視鏡検診の精度管理指標」

山口 和也

「腺腫検出割合に影響を及ぼす因子の検討」

河村 卓二

「Japan Endoscopy Database を用いた大腸内視鏡 Quality indicator の評価」

水口 康彦

## 検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担当理事：入口陽介

委員：萩原 武・鈴木康雄・小野寺紀代美（北海道）、千葉隆士・菅野宏之・山田美穂（東北）、  
小田丈二・見本真一・小川敬子（関東甲信越）、丸田真也・西川 孝（東海北陸）  
伊藤高広・末松裕之・池宮城賀恵子（近畿）、安田 貢・大久保誠（中国四国）  
満崎克彦・石本裕二・池田晶子（九州）

委員会開催：4回（うち持ち回り4回）

### 1. 2022年度総会（東京）放射線フォーラムについて

#### 1) プログラム

・シンポジウム「基準撮影法の現状と課題」

2) 司会は、東海北陸支部の丸田真也医師委員、西川 孝技師委員が推薦された

### 2. 第6回胃がん検診専門技師研修会について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み現地開催を中止し、オンデマンド配信によるWeb開催となった。配信期間は2021年10月18日（月）～11月2日（火）までの2週間とした。参加者人数は459名であった。

プログラム

#### 1. 講義Ⅰ 「透視観察の重要性—動画をを用いた拾い上げの実際」

講師：小田丈二

#### 2. 講義Ⅱ 「専門技師による撮影プロセスの全国標準化が読影補助の有効性と胃がん検診の不利益最小化をもたらすか」

講師：見本真一

#### 3. 教育講演Ⅰ 「我が国の胃癌と *H.pylori* 感染の現状、カテゴリ分類の登場とその背景」

講師：山道信毅

#### 4. 教育講演Ⅱ 「胃の思考診断学 ～立体的に読む～」

講師：中原慶太

#### 5. 症例検討 講師：満崎克彦・石本裕二

### 3. 2022年第7回胃がん検診専門技師研修会について

下記要綱にて開催することとなった。

日 時：2022年10月3日（月）～10月17日（月）

場 所：オンデマンド配信

対 象 者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留中の者

受 講 料：5,000円

定 員：400名

申 込 期 間：2022年10月3日（月）～10月17日（月）

付 与 単 位：胃がん検診専門技師認定更新6単位

実 行 委 員 長：入口陽介（日本消化器がん検診学会 検診従事者委員会委員長）

代 表 世 話 人：（中国四国）安田 貢医師委員、大久保誠技師委員

世 話 人：（北海道）鈴木康雄（東北）菅野宏之（関東甲信越）見本真一（東海北陸）西川 孝  
（近畿）末松裕之（九州）石本裕二

会 計 監 査：伊藤高広

### 4. 2022年度胃がん検診専門技師認定新規及び更新対象者の新型コロナ感染の影響による救済措置について

・新規申請者：B資格合格証明証の有効期限を7年とした。取得期間を過去5年間とした。

・更新対象者：期日までに手続きが行われない場合、救済措置により自動的に1年延長とした。

・保留対象者：更新保留期間を最長3年までとした。

## 胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担当理事：入口陽介

委員：萩原 武・鈴木康雄（北海道）千葉隆士・菅野宏之（東北）小田丈二・見本真一（関東甲信越）、  
丸田真也・西川 孝（東海北陸）伊藤高広・末松裕之（近畿）安田 貢・大久保誠（中国四国）  
満崎克彦・石本裕二（九州）

委員会開催：3回（うち持ち回り3回）

### 1. 2021年度新規認定審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 142名（合格者 139名，不合格者 2名，未提出者 1名）

なお，不合格者 2名及び未提出者 1名の審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 139名に認定証を交付した。

### 2. 2021年度認定技師更新審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

更新該当者 717名（合格者 424名，認定保留 59名，救済措置者 220名，不合格者 4名，認定取消 10名）

なお，不合格者 4名は，審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 更新合格者 424名に認定証を交付した。



## 超音波検診委員会

担当理事：岡庭信司

顧問：平井都始子

委員：小川真広

各支部委員：久居弘幸、千葉祐子（北海道） 正宗 淳、佐藤 務（東北）  
松本直樹、山本美穂（関東甲信越） 廣岡芳樹、西川 徹（東海北陸）  
西村重彦、森 雅美（近畿） 眞部紀明、渡邊敏充（中国四国）  
西 潤子、平賀真雄（九州）

委員会開催：なし

### 1. 第 61 回総会（滋賀）プログラムについて

次年度の超音波フォーラムを企画した。

- ・ワークショップ「超音波検診判定マニュアル 2021 を活用する」

司会：平井都始子（奈良県立医科大学総合画像診断センター）

小川 真広（日本大学病院 消化器内科／超音波検査室）

- ・教育講演「肝腫瘍の鑑別診断-悪性疾患を中心に-」

演者：飯島 尋子（兵庫医科大学 肝・胆・膵内科）

司会：岡庭 信司（飯田市立病院 消化器内科）

- ・症例検討「カテゴリー判定に困った症例」

司会：西村 重彦（住友病院 消化器外科・乳腺外科）

森 雅美（PL 病院）

- ・クイズセッション

司会：阪上 順一（市立福知山市民病院 消化器内科）

川端 聡（住友病院 診療技術部 超音波技術科）

柴田 陽子（兵庫医科大学 臨床検査技術部）

## 胃 X 線読影補助認定委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：山道信毅

委員：安保智則，井上和彦，入口陽介，小田丈二

（読影 e-learning 小委員会：加藤勝章（委員長）山道信毅（副委員長），青木利佳，安保智典，伊藤高広，  
小田丈二，千葉隆士，萩原 武，満崎克彦，安田 貢）

委員会開催：6 回（うち Web 会議 4 回，持ち回り 2 回）

### 1. 2021 年度読影補助認定審査結果について

1) 基準に基づいて審査した結果，下記のとおり承認された。

申請者 254 名（合格者 254 名）

2) 254 名に認定証を交付した。

### 2. 2022 年度読影 e-ラーニング講習について

1) 講義

講義内容の変更なし。

2) 症例問題

e-ラーニング症例問題の追加数は 17 例となり，合計 99 題からシャッフルされた 50 題が症例問題として出題される。

## 大腸 CT 検査技師認定委員会

担当理事：野崎良一

顧問：斎藤 博

副委員長：永田浩一

委員：有馬浩美、遠藤俊吾、高林 健、富松英人、服部昌志、松本啓志、八坂貴宏、安田貴明

委員会開催：2回（WEB開催1回、持ち回り審議1回）

### 1. 2021年第2回大腸CT検査教育研修会・大腸CT検査実践トレーニングコースを開催した。

実施形態：オンデマンド配信

配信期間：2021年6月4日（金）正午～15日（火）正午

受講料：大腸CT検査教育研修会 5,000円（イベントペイ利用料500円）

大腸CT検査実践トレーニングコース 5,000円（イベントペイ利用料500円）

大腸CT検査教育研修会・大腸CT検査実践トレーニングコース 10,000円

（イベントペイ利用料500円）

申込者人数：大腸CT検査教育研修会：77名

大腸CT検査実践トレーニングコース：76名

#### ・大腸CT検査教育研修会 プログラム

開会挨拶 永田 浩一

総論（エビデンス、制度、ガイドライン等） 富松 英人

各論（前処置） 遠藤 俊吾

各論（撮影法） 遠藤 俊吾

各論（読影の概略） 八坂 貴宏

閉会挨拶 永田 浩一

#### ・大腸CT検査実践トレーニングコース プログラム

（ワークステーションを使ったデモンストレーション） 80分

開会挨拶 永田 浩一

概論 読影の流れ 司会・操作：安田 貴明

症例提示 病変との鑑別 サポート：永田 浩一

症例提示 腫瘍性病変 富松 英人

症例提示 偽陽性・偽陰性 遠藤 俊吾

症例提示 ピットホール 八坂 貴宏

閉会挨拶 永田浩一

2. 2021年度第2回大腸CT検査技師認定審査を実施した。

スケジュール

申請書ダウンロード：2021年3月1日（月）～6月21日（月）

申請書提出：2021年4月1日（木）～6月30日（水）

認定証送付：2021年9月～10月

認定審査料：10,000円（イベントペイ利用料600円）

申請者：41名

認定者：39名

保留者：2名（会員歴不足のため、翌年の認定に回す）

3. 2022年度大腸CT検査技術施設認定審査を実施した。

スケジュール：

申請書ダウンロード期間：2021年11月1日（月）～2022年2月14日（月）

申請書提出期間：2021年11月1日（月）～2022年2月14日（月）

認定証送付：2022年4月

認定審査料：30,000円

申請施設：9施設

認定施設：9施設

## 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ

(マニュアル改訂版が完成し、2021年度で終了)

担当理事：岡庭信司

委員長：小川真広

顧問：小野寺博義、熊田 卓、小島正久、田中幸子、中島美智子、水間美宏

委員：乾 和郎、田中信次、千葉祐子、西川 徹、西村重彦、平井都始子、三原修一、依田芳起

外部委員：足立雅樹、新 智文、和田高士

委員会開催：5回（Web会議2回、持ち回り3回）

### 1. 腹部超音波検診判定マニュアル改訂版（2021年）について

- ・6月30日付でホームページに学会誌掲載に先立ち、本文と表を抜粋したホームページ版を公開した。
  - ・学会誌60巻1号に参照画像を含めた「腹部超音波検診判定マニュアル改訂版（2021年）」のフルバージョン版を掲載し、本学会HPにも公開した。
  - ・別冊6,000部を作成し、本学会支部、超音波検診委員などに配布した。
  - ・今後HPに動画を含む詳細な画像を追加掲載する予定だが、学会誌に掲載した画像などに対するご意見・ご質問が寄せられる可能性が高いため、3-4か月程度経過をみてから開始したい。
  - ・本マニュアルを海外普及のため、和田高士先生（東京慈恵会医科大学）の研究班の厚労省科学研究費補助金を利用し、英文化することを理事会に諮り、承認された。
- なお、英文化のマニュアルは日本超音波医学会誌に掲載することとなった。

## 胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：小田丈二

委員：（医師）伊藤高広

（技師）石本裕二，大久保誠，菅野宏之，小牟田学，重松 綾，末松裕之，西川 孝，見本真一，山本兼右

外部委員：小田雄二（富士フィルムヘルスケア），長束澄也（コニカミノルタ），山内宏祥（バイエル薬品）

委員会開催：6回（うち Web 開催 4 回，持ち回り 2 回）

### 1. DRL 調査プロトコルについて

見本技師委員を中心に検討を重ね，プロトコル案が作成された。

### 2. 調査方法について

#### 1) 撮影法分科会

DRL 策定調査の対象となる施設について検討された。

オペレータースキルの標準化を図るため，撮影法の手技については，見本技師委員の施設の撮影法を参考動画として，調査対象施設に配布する。

#### 2) 測定法分科会

調査対象施設の装置について検討された。

調査対象を全衛連の A 評価施設としたいが，面積線量計などの有無について事前確認が必要。アンケート調査を行うこととなった。

### 3. アンケート調査時期について

2022 年 9 月以降を目標としたい。

## 対策型胃内視鏡検診の精度管理に関するワーキンググループ

委員長：加藤勝章

委員：浅沼清孝、安保智典、井口幹崇、入口陽介、雑賀公美子、高橋宏和、平川克哉、町井涼子

外部委員：中山富雄

委員会開催：2回(WEB)

1. 「対策型胃内視鏡検診の現状と課題」「学会附置研における議論の経緯」「対策型胃内視鏡検診に関する学会・国立がんセンターのQ&Aの整理」「データ収集の流れと健康増進事業報告での取り扱いの整理」を踏まえ、改訂すべき点をピックアップした。
2. 対策型胃内視鏡検診における精検判定のアルゴリズムの整理について検討することにした。